

龍谷大学 社会学部紀要

第 35 号

論 文

- 福祉ロボットが究極の目標か 上 林 茂 暢 (1)
 レオン・ミシュウの法人論 (1) 時 本 義 昭 (13)
 住民参画型社会における自治体広報改革
 ——滋賀県高島市の事例にもとづく一考察—— 築 地 達 郎 (25)
 「健康食品」の利用調査 ——甲賀町調査報告—— 多 田 敦 士 (40)
 「健康食品」の利用調査 ——草津市調査報告—— 黒 田 浩 一 郎 (40)
 佐々木 洋 子 (53)
 黒 田 浩 一 郎 (53)
 配偶者選択の歴史社会学のための文献研究 (1)
 ——明治から戦前までの家族に関する諸研究の考察—— 桑 原 桃 音 (69)
 脂質異常症予防のための健康教室の効果の追跡調査 (第1報)
 ——HDL コレステロール値に注目して—— 宮 川 尚 子 (81)
 住宅政策の動向 ——臨調・行革路線を契機として—— 田 中 聡 子 (94)
 生活保護制度における自立論の到達点と今日的課題 戸 田 典 樹 (106)
 ジンメル社交論の再検討 松 本 拓 (116)

研究ノート

- 仕事・社会化・自己実現
 ——ある女性銀行員の職業的社会的化に関する事例研究—— 工 藤 保 則 (127)

翻 訳

- カールトン・マンソン編『ソーシャルワーク・スーパービジョン：
 古典的文献とその論点』その1 川 田 譽 音 (136)
 スチュアート・ホワイト著『ベーシック・インカムに対する
 エクスプロイテーション批判の再考』 權 順 浩 (149)

2009

龍谷大学社会学部学会

龍谷大学社会学部学会会則

制定 平成元年 4 月 1 日
一部改正 平成10年 6 月24日
一部改正 平成13年 3 月21日
一部改正 平成15年 3 月12日
一部改正 平成18年 9 月27日
一部改正 平成19年 3 月13日

(名称, 事務所)

第 1 条 本会は、龍谷大学社会学部学会と称し、事務所を龍谷大学瀬田学舎社会学部内に置く。

(目的)

第 2 条 本会は、社会学、社会福祉学及び隣接諸科学の学術研究を推進することを目的とする。

(事業)

第 3 条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 機関誌『龍谷大学社会学部紀要』の発行
- (2) 学術講演会、シンポジウム、研究会等の開催
- (3) 学生会員の研究支援
- (4) その他本会が必要と認める事業

(構成)

第 4 条 本会は、次の会員をもって組織する。

- (1) 普通会員 龍谷大学社会学部に所属する専任の教員及び本会の趣旨に賛同する龍谷大学の専任教員
- (2) 学生会員 龍谷大学社会学部及び龍谷大学大学院社会学研究科の学籍を有する学生
- (3) 賛助会員 前 2 号以外の者で、本会の趣旨に賛同する個人又は団体
- (4) 名誉会員 本会の会員であった者で、龍谷大学の名誉教授である者

(会長及び諸委員)

第 5 条 本会に以下のように会長及び委員を置く。

- (1) 会長 1 名
- (2) 庶務 2 名
- (3) 会計委員 2 名
- (4) 『龍谷大学社会学部紀要』委員 4 名
- (5) 『龍谷大学社会学部ジャーナル』委員 4 名
- (6) 事業委員 4 名
- (7) 学科委員 各学科 1 名
- (8) 会計監査委員 2 名

2 前項の諸委員を同一人が兼ねることはできない。

(会長及び諸委員の選任と任期)

第6条 会長は、龍谷大学社会学部長をもって充てる。会長に事故ある時は、庶務委員が共同してその職務を代理する。

- 2 前条第1項7号委員を除く同項の各委員は、会長が普通会員の中から委嘱し、評議員会に報告する。7号委員は学科で選出する。
- 3 各委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。途中退任の場合、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。ただし、7号委員の任期は学科で定める。
- 4 前条の(4)(5)(6)の委員は、それぞれ委員会を構成する。各委員会に委員長を置き、各委員長は、各委員会において互選する。

(会長、各委員会及び委員の職務)

第7条 会長及び各委員会並びに委員は、次の職務を行う。

- (1) 会長は、本会の業務を統括し、本会を代表する。
 - (2) 庶務委員は、本会の庶務を処理するとともに、会長を補佐する。
 - (3) 会計委員は、本会の会計を処理する。
 - (4) 『龍谷大学社会学部紀要』委員会は、同誌の編集発行に関する事務を処理する。
 - (5) 『龍谷大学社会学部ジャーナル』委員会は、同誌の編集発行に関する事務を処理する。
 - (6) 事業委員会は、(4)(5)を除く本会の事業を企画、立案、運営する。
 - (7) 学科委員は、学科を代表して本会と連絡調整を図る。
 - (8) 会計監査委員は、本会の会計監査を行う。
- 2 本条第1項の(4)(5)(6)の委員会は、その事業の企画、立案、運営にあたり、委員会の判断で普通会員あるいは学生会員に参画を求めることができる。なお、参画に当たり経費を伴う場合は、あらかじめ常任委員会の承認を得るものとする。

(常任委員会)

第8条 本会の円滑な運営のために常任委員会を置く。

- 2 常任委員会は、会長、庶務委員及び会計委員のうちから各1名、並びに第6条4項の各委員長、及び第5条1項7号委員をもって構成する。
- 3 常任委員会は、会長が招集し、議長となって次の事項を処理する。
 - (1) 予算案・決算案の作成
 - (2) 事業実施の承認
 - (3) 会員の入会・退会の承認
 - (4) その他必要な事項の審議
- 4 常任委員会の議決は、出席者の過半数以上の同意による。

(評議員会)

第9条 本会に評議員会を置く。

- 2 評議員会は、普通会員全員で構成する。
- 3 評議員会は、会長が招集し、議長となり、本会の予算決算及び必要な事項を審議する。
- 4 評議員会の議決は、出席者の過半数以上の同意による。

(会計)

第10条 本会の経費は、入会金、年会費、龍谷大学からの助成金、事業収入及び寄付金を

もって充てる。

(会計年度)

第11条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(入会金)

第12条 本会への入会に際しては、入会金2,000円を納入する。

(年会費)

第13条 会員は、年会費4,000円を納入する。

- 2 賛助会員は、入会時に、入会金とともに年会費4,000円以上を納入する。
- 3 名誉会員は、入会金及び年会費がともに免除される。

(改廃)

第14条 この会則の更改は、第9条4項の規定にかかわらず、評議員会において出席者の3分の2以上の賛同を要する。

付 則 この会則は、平成元年4月1日から施行する。

付 則 平成10年6月24日一部改正。同日より施行する。

付 則 平成13年3月21日一部改正。同日より施行する。

付 則 平成15年3月12日一部改正。平成15年4月1日より施行する。

付 則 平成18年9月27日一部改正。平成19年4月1日より施行する。

付 則 平成19年3月13日一部改正。平成19年4月1日より施行する。

『龍谷大学社会学部紀要』規則

平成元年6月14日 制定

第1条 この規則は、龍谷大学社会学部学会会則第3条に基づく機関誌『龍谷大学社会学部紀要』（以下、『紀要』とする）の発行について定めるものである。

第2条 『紀要』は、原則として毎年度2回発行する。

第3条 原稿の募集、編集及び発行は、『龍谷大学社会学部紀要』委員会（以下、委員会とする）が行う。

2 原稿の掲載は、委員会が決定する。

3 原稿の投稿は、普通会员、賛助会員及び博士課程在学中の学生会員とする。なお、博士課程在学中の学生会員が投稿する場合、あらかじめ指導教員の指導を受けなければならない。

4 普通会员を筆頭執筆者として非会員が共同執筆した原稿を掲載するに当たっては、非会員は当該年度の賛助会員となるものとし、入会金及び年会費をあらかじめ納入するものとする。

第4条 原稿は、論文・研究資料・研究ノート・書評・翻訳等（以下、論文等とする）とする。

第5条 論文等の執筆は、次の要項によるものとする。

(1) 論文等は、未発表のものに限る。

(2) 論文等の分量は原則として以下のようにする。

ア 論文は、20,000字（400字詰原稿用紙50枚）以内

イ 研究資料・研究ノートは、12,000字（400字詰原稿用紙30枚）以内

ウ 書評・翻訳は、6,000字（400字詰原稿用紙15枚）以内

(3) 論文等には、必ず欧文タイトルを添付するものとする。

第6条 掲載論文等について50部の抜刷を無償で提供する。共同執筆の場合にも同様とする。ただし、第3条第4項の賛助会員には、各50部を無償で提供する。

2 50部を超える抜刷を希望する執筆者は、超過分の実費を支払う。

第7条 掲載論文等の著作権は執筆者に帰属するが、本学及び国立情報学研究所等が論文等を電子化により公開するものについては、複製権及び公衆送信権の行使を社会学部学会に委託するものとする。ただし、電子化による公開は執筆者の許諾を得たうえで行うものとする。

第8条 本規則の改正は、常任委員会の議によるものとする。

第9条 本規則は、平成元年6月14日より実施する。

付 則

1 平成13年4月27日改正

2 平成15年4月24日改正

3 平成17年5月11日改正

4 平成17年7月13日改正

5 平成18年9月27日改正

6 平成20年11月25日改正

社会学部学会会員

会 長	大 友 信 勝							
社会学部紀要委員	小 黒 純 亀 山 佳 明 清 水 教 恵 清 水 隆 則* (*は委員長)							
庶務委員・会計委員	池 田 省 三 田 村 公 江* 西 山 けい子 松 島 恵 介 (*は委員長)							
社会学部ジャーナル委員	青 木 恵理子* 上 林 茂 暢 山 田 容 李 相 哲 (*は委員長)							
事 業 委 員	古 賀 和 則 田 中 明 彦 山 田 容* 山 中 美由紀 (*は委員長)							
学 科 委 員	安 西 将 也 加 藤 剛 白 石 正 久 津 島 昌 弘							
会 計 監 査 委 員	大 塩 まゆみ 田 中 滋							
普 通 会 員	朝 倉 恵 俊 荒 田 寛 五十嵐 海 理 井 上 辰 樹 長 上 深 雪 金 子 龍 太 郎 川 田 譽 音 岸 政 彦 木 村 綾 工 藤 保 則 久 保 和 之 栗 田 修 司 黒 田 浩 一 郎 小 保 椋 博 佐 藤 彰 男 高 松 智 画 多 田 敦 士 築 地 達 郎 土 田 美 世 子 筒 井 の り 子 時 本 川 義 昭 殿 内 恒 中 井 島 佐 代 子 西 川 淑 子 西 村 敏 雄 新 舟 田 光 子 原 田 浦 さ と 子 伏 見 惠 文 舟 橋 和 夫 松 浦 井 龍 治 松 溪 憲 雄 宮 川 尚 子 村 井 龍 子 村 澤 真 保 呂 持 田 良 和 脇 山 邊 朗 一 吉 田 竜 竜 司 李 复 屏 脇 田 健							

龍谷大学社会学部学会 2008 年度決算書

2008 年 4 月 1 日から 2009 年 3 月 31 日

〈収入の部〉

予 算 科 目		予算	決算	差 異	備 考
納付金	2008年度 普通会員会費	282,000	262,000	20,000	継続会員 64 名 新規会員 1 名
	学生会員会費	6,926,000	6,568,000	358,000	学 部：継続会員 1,982 名, 新規会員 614 名 修士課程：継続会員 15 名, 新規会員 21 名 博士課程：継続会員 10 名, 新規会員 5 名
	賛助会員会費	0	4,000	△4,000	非常勤講師 1 名
2008 年度会費収入合計		7,208,000	6,834,000	374,000	
前年度繰越金		64,761,126	64,761,126	0	
合 計		71,969,126	71,595,126	374,000	

〈支出の部〉

内 訳		予算	決算	差 異	備 考	
費	全 体 事 業	学会誌印刷費	3,500,000	2,852,850	647,150	社会学部紀要第 33 号 (3,250 部)・34 号 (3,700 部), 社会学部ジャーナル第 8 号 (3,900 部)
		原 稿 料	400,000	547,428	△147,428	社会学部ジャーナル原稿料
		発 送 費	200,000	5,600	194,400	社会学部紀要・社会学部ジャーナル送料
		講 演 料	600,000	299,999	300,001	講演会・シンポジウム講師料
		交 通 費	150,000	84,100	65,900	講師交通費
		研 究 交 流 費	700,000	453,163	246,837	修士論文中間発表会, 講演会・シンポジウム懇親 会等
		編 集 諸 費	800,000	770,805	29,195	社会学部ジャーナル編集経費等
		事 業 諸 費	800,000	982,576	△182,576	講演会・シンポジウム開催経費等
		研 究 奨 励 金	700,000	443,940	256,060	全国学会発表補助, 研究活動補助, 社会学部学会賞
		20 周年事業費	4,000,000	4,000,000	0	
	社会学会寄付 事業費	2,692,045	2,692,045	0		
	全体事業小計		14,542,045	13,132,506	1,409,539	
	学 科 事 業	社会学科	746,000	746,000	0	優秀論文集印刷代, 実習後懇親会経費等
コミュニティマネジメント学科		549,000	511,847	37,153	優秀論文集印刷代, 新入生歓迎会経費等	
地域福祉学科		585,000	603,416	△18,416	優秀論文集印刷代, 新入生歓迎会経費等	
臨床福祉学科		577,000	603,416	△26,416	優秀論文集印刷代, 新入生歓迎会経費等	
小 計		2,457,000	2,464,679	△7,679		
事業費合計		16,999,045	15,597,185	1,401,860		
事 務 費	消 耗 品	70,000	0	70,000	学会運営に係る消耗品費	
	通 信 費	40,000	75,400	△35,400	事務連絡用切手代等	
	旅 費	50,000	0	50,000		
	会 合 費	50,000	27,950	22,050	委員会開催に係る経費	
	謝 金	1,314,000	639,450	674,550	事業実施およびジャーナル編集指導補助	
	情報機器整備費	351,000	190,260	160,740	学会運営に係る PC リース代, カメラセットリース代	
	学会室整備費	50,000	0	50,000		
小 計		1,925,000	933,060	991,940		
事業費・事務費合計		18,924,045	16,530,245	2,393,800		
予 備 費		53,045,081	0	53,045,081		
次年度繰越金		0	55,064,881	△55,064,881		
合 計		71,969,126	71,595,126	374,000		

龍谷大学社会学部学会 2009 年度予算書

(収入の部)

予 算 科 目		2009 年度	2008 年度	増 減	備 考
納付金 2009年度	普通会員会費	244,000	282,000	△38,000	継続会員@4,000×58名, 新入会員@6,000×2名
	学生会員会費	9,044,000	6,926,000	2,118,000	学部：4年 694名, 2,3年@4,000円×1,177名, 新入会員@6,000円×682名 修士課程：継続会員@4,000円×31名, 新入会員@6,000円×10名 博士課程：継続会員@4,000円×12名, 新入会員@6,000円×2名
2009 年度会費収入合計		9,288,000	7,208,000	2,080,000	
前 年 度 繰 越 金		55,064,881	64,761,126	△9,696,245	
合 計		64,352,881	71,969,126	△7,616,245	

(支出の部)

内 訳		2009 年度	2008 年度	増 減	備 考	
事業費	全 体 事 業	学会誌印刷費	3,500,000	3,500,000	0	学会誌およびジャーナル印刷費
		原稿料	400,000	400,000	0	ジャーナル原稿料
		発送費	200,000	200,000	0	紀要, ジャーナル発送費
		講演料	600,000	600,000	0	事業関連講演会・シンポジウムの講師料
		交通費	150,000	150,000	0	講演会・シンポジウムの講師交通費
		研究交流費	1,150,000	700,000	450,000	講演会懇親会, 修士論文中間報告会, 全国学会等 開催助成, 学外実習報告会等
		編集諸費	800,000	800,000	0	ジャーナル編集経費
		事業諸費	800,000	800,000	0	事業実施経費
		研究奨励金	700,000	700,000	0	学生・院生の研究活動補助, 院生の全国学会発表 補助, 学部学会賞2名×3万円
		共生社会センター費	1,500,000	0	1,500,000	シンポジウム開催費, プロジェクト研究費, 事務経費等
	20周年事業費	0	4,000,000	△4,000,000	社会学部20周年記念事業費	
	社会学会寄付事業費	0	2,692,045	△2,692,045	社会学会寄付による事業費	
	全体事業小計			9,800,000	14,542,045	△4,742,045
学 科 事 業	社会学科	746,000	746,000	0		
	コミュニティマネジメント学科	549,000	549,000	0		
	地域福祉学科	585,000	585,000	0		
	臨床福祉学科	577,000	577,000	0		
小 計		2,457,000	2,457,000	0		
事業費合計		12,257,000	16,999,045	△4,742,045		
事 務 費	消耗品	70,000	70,000	0	学会運営に係る消耗品費	
	通信費	40,000	40,000	0		
	旅費	50,000	50,000	0		
	会合費	50,000	50,000	0	委員会開催に係る経費	
	謝金	1,314,000	1,314,000	0	事業実施およびジャーナル編集指導補助	
	情報機器整備費	351,000	351,000	0	学会運営に係る PC リース代, カメラセットリース代	
	学会室整備費	50,000	50,000	0		
小 計		1,925,000	1,925,000	0		
事業費・事務費合計		14,182,000	18,924,045	△4,742,045		
予 備 費	予 備 費	2,400,000	2,568,000			
	そ の 他	47,770,881	50,477,081			
	小 計	50,170,881	53,045,081	△2,874,200		
合 計		64,352,881	71,969,126	△7,616,245		

執筆者紹介（掲載順）

上 林 茂 暢（社会学部教授）	時 本 義 昭（社会学部准教授）
築 地 達 郎（社会学部准教授）	多 田 敦 士（実習助手）
佐々木 洋 子（大阪市立大学 大学院 文学研究科 後期博士課程）	黒 田 浩一郎（社会学部教授）
桑 原 桃 音（社会学部非常勤講師）	宮 川 尚 子（実習助手）
田 中 聡 子（社会学研究科 博士後期課程）	戸 田 典 樹（社会学研究科 博士後期課程）
松 本 拓（社会学研究科研究生）	工 藤 保 則（社会学部准教授）
川 田 譽 音（社会学部教授）	權 順 浩（社会学研究科 博士後期課程）

編 集 後 記

◇ 今回は、大学院研究生の論文等を含め多くの論考を掲載することができました。執筆者の方々に感謝します。

ある大学の院長は、大学の名声とは学生の数や建物の立派さなどではなくて、いかにその大学が、社会や個人に対して人格的、学問的感銘を与えるかにあると述べていますが、まさに大学の研究紀要とはそのような大学の使命の中核を担う直接的媒介物であるといえるでしょう。

個人的業績にとどまらず、大学の使命に貢献するような紀要作りに努めていきたいと考えておりますので、今後ともご協力のほどお願いします。

(S. T)

平成21年11月25日 印刷

平成21年11月30日 発行

編 集 者 龍谷大学社会学部紀要編集委員会
印 刷 者 協 和 印 刷 株 式 会 社
発 行 者 龍 谷 大 学 社 会 学 部 学 会
〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷 1-5
電話 (077) 543-5111(代)

Bulletin
of
the Faculty of Sociology
Ryukoku University

(SHAKAIGAKUBU-KIYO, RYUKOKU DAIGAKU)

No. 35

2009

CONTENTS

Articles

- Care Worker Robots Might Help the Handicapped
- Are They an Ideal Solution in Our Welfare Society? - Shigenobu Kambayashi (1)
- Theory of Léon Michoud's Juristic Person Yoshiaki Tokimoto (13)
- Public Relations at Self-governing Body in the Society of Participation
- A Challenge of Takashima City - Tatsuo Tsukiji (25)
- Utilization of "Health Food" by Laypeople in Japan
- Report on a Survey of Koka-Cho - Atsushi Tada (40)
Koichiro Kuroda
- Utilization of "Health Food" by Laypeople in Japan
- Report on a Survey of Kusatsu City - Yoko Sasaki (53)
Koichiro Kuroda
- A Literature Study Toward a Historical Sociology of Spouse Selection (1)
- Consideration to studies of Family in the period
from Meiji to Early Showa - Momone Kuwabara (69)
- Follow-up Study in Effect of Intervention Program
on Serum HDL-cholesterol and Lifestyle Naoko Miyagawa (81)
- Trend of Housing Policy - The 1980's as a Turning Point - Satoko Tanaka (94)
- Current Goals and Problems of the Independency Theory through in the Public
Assistance System Based Primarily on the Daily Life Security Law Noriki Toda (106)
- Reexamination of Simmel's Sociability Theory Taku Matsumoto (116)
- Note*
- A Case Study about the Occupational Socialization of a Bank Clerk Yasunori Kudou (127)
- Translations*
- Carlton E. Munson ed., "Social Work Supervision
- Classic Statements and Critical Issues -" (1) Takane Kawata (136)
- Stuart White, "Reconsidering the Exploitation Objection to Basic Income" Sun Ho Kwon (149)

Published by
THE ASSOCIATION OF FACULTY OF SOCIOLOGY
RYUKOKU UNIVERSITY
OHTSU, SHIGA, JAPAN